

安心を創造する企業



株式会社 LA・PITA



本社外観

企業概要



代表取締役会長 兼 CEO

澤 直樹氏

所在地 三重県四日市市小古曾2丁目2番15号
TEL:059-329-5885 FAX:059-329-5850

設立 2012年(平成24年)12月

資本金 88,888,888円

従業員数 38名(2023年5月現在)

事業内容 防災用品・防災セットの企画・開発・製造および販売・システムの開発

URL <https://lapita.co.jp>

災害時に本当に役立つ防災用品を提供する、
防災用品のリーディングカンパニー

デザイン&品質に優れた 防災用品

株式会社 LA・PITA(ラピタ)は、防災グッズの企画製造販売を専門に行う、2012年に四日市市で創業した企業である。最近ではNHK連続テレビ小説「あまちゃん」のヒロインを起用したTVCMをよく見かける。

14年に楽天市場やYahoo!ショッピングなどに自社通販サイトをオープンすると、他社にはない商品コンセプトや心に届くメッセージ発信で注目を浴び、18年には55,000店以上の出店ショップの中から年間の最優秀店舗を選ぶ「楽天SHOP OF THE YEAR(ショップ・オブ・ザ・イヤー)受賞」にも輝いた。

同社商品の特徴はリビングや玄関、ベッドルームなどに違和感なく溶け込むデザイン性を追求しているところ。これは、「いざという時すぐ持ち出せるよう、近



インテリアに馴染み、置き場所を選ばない

くに置いておきたい商品」というコンセプトから生まれた。

また防災士の監修による「安全・安心」に基づいた商品設計も選ばれる理由のひとつで、同社商品は一般社団法人防災安全協会の「防災製品等推奨品」認定も受けている。

被災地でうけた衝撃

創業者で代表取締役会長兼CEOの澤直樹氏は中学時代に野球に打ち込む傍ら、パソコンに興味を持ちホームページを自



会社の敷地内に設けられた「貸し農園」

作したりするなど、何事にも熱中するタイプだったという。ある日、友人とキャッチボールをしていた際、友人が自分よりはるかに速い球を投げることにシヨクを受け、野球における自身の才能の限界を悟ったという。以降、澤会長は野球での成功を人生の目標とすることは諦め、その後は企業に就職した。

転機が訪れたのは就職から5年が経った頃。2011年3月11日の東日本大震災発生からしばらくして仙台への転勤を命じられた時だ。震災被害を目の当たりにし、言葉が失った。

「被災地の様子は想像を絶していた。戦争で何もかも失われた廃墟のようだった」と澤会長は話す。報道では伝わっていない現実の惨状に「何かしなければ」との思いが募った。震災ボランティア活動に参加したとき、被災者から「今を大切に生きろ」と声をかけてもらった。「被災地でのボランティア経験が自分の生き方を見つめ直すきっかけになった。それまではただお金を稼ぐために働き、どこかで物足りなさを感じ

ていた。ようやく「自分で何かを成し遂げたい」という自身の気持ちに気づいた」と話す。

被災地の経験から生まれたアイデア

一念発起した澤会長は、すぐに会社を辞め、地元三重県に戻った。一人で会社を立ち上げ、さまざまな仕事をする中でふと思いついたのが中学時代に熱中したホームページ制作である。

もともと新しいものやモノづくりに好きだったという澤会長。被災地のボランティア経験を活かして防災グッズを作り、ネット販売ができないかと考えた。ボランティア参加当時、ホームセンターで防災用品を探したとき、「どれもオモチャのよう」であまり役に立たないと感じたことを思い出した。



防災セットラピタ(1人用)のセット内容

澤会長は、自ら防災用品の図面を描き、製造してくれる工場を求めて全国、果ては海外の工場まで電話をかけ、探した。

随所に活かされたこだわり

持ち前のこだわりが発揮されたのは商品開発だけではない。

自社通販サイトのキャッチコピーや商品紹介文面も自分で作り上げた。Eコマースの場合、カタログのように商品を羅列しただけのシヨップは失敗しやすいという。姿が見えないからこそ、店とのコミュニケーションが商品購入の動機につながるからだ。

LA・PITAの通販サイトは「震災への備え」を導入として「なぜこの商品を作ったのか」という説明へとストーリー展開される。購入者の生活スタイルや家族構成、誰が使うのかなどを想定し、商品を使った時のメリットや特徴をイラストなども用いて「目でわかるようにしている」。

また、購入者から投稿された口コミは社員が目を通して必ず返信し、その意見を商品開発や改良に生かしているという。

顧客の立場に立ったものづくり

「モノづくりが楽しい」「お客様に喜んでもらいたい」という探求心が、LA・PITAの商品開発の原動力だ。

一般的に防災用品として採用

社員との距離を近くする福利厚生

福利厚生にもオリジナリティが光る。本社敷地内に従業員が自由に利用できる「貸し農園」、「ゴルフアプローチ練習場スペース」を設置。時には澤会長自ら社員食堂の厨房に立ち、得意の料理をふるまうこともあり、自然と皆が集う雰囲気社内醸成されている。

「どちらかといえば、選手よりも監督タイプ」と自らを評する澤会長。実際、自身が率いる草野球チームでも年齢、性別、国籍もバラバラで能力やタイプが異なるメンバーを監督としてまとめ、草野球の大会に出場。強豪ひしめく中、全員を試合に出し、見事、県大会の決勝まで勝ち進んだことがある。

社員教育においても、社内の調整役を買って出て、従業員の性格や立場に合わせて指導や助言をすることを意識しているという。

防災用品をより身近に

身の回りにあるモノやサービ

スを、日常はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方「フェーズフリー」。同社でもこの考え方に基づいた商品開発を行っている。

現在、登山などの携帯食にも、災害時の非常食にもなるフェーズフリー食品を開発中だ。日持ちや非常時の簡便さが重視され、「味は二の次」という保存食が多い中、同社では美味しさを保つたまま保存ができる特許を持つ技術者を探し、協力して商品改良に取り組んでいる。

また、人気コンテンツとコラボレーションした防災セットも好評を博している。きっかけは4年前、読売巨人軍から「球団公式の防災セットを作りたい」と同社に声がかかったことだ。以降、「映画『シン・ウルトラマン』『刀剣乱舞』など、映画会社やゲーム会社からコラボの引き合いが次々と寄せられるようになった。アニメのイラストや映画のロゴを付した防災セットはファンの心をつかみ、「防災意識が希薄な若い世代に、防災に興味を持ってもらう良いきっかけになった」と澤会長は喜ぶ。

支店より一言

防災用品のEC販売においてトップブランドの地位を確立し、飛躍的な成長を遂げる同社。オリジナル商品における機能性の追求、洗練されたデザイン、お客さまに寄り添った細やかな心遣いなど、徹底したこだわりに深く敬服いたします。

万一に備えて災害時に真に役立つ信頼性の高い商品を提供することで、安心安全な未来をより多くの人にお届けする同社を、今後も全力で応援いたします。



百五銀行 日永支店長 小川 祐司